

# 総合計画推進委員会検証結果まとめ

## 重点項目 1

- ・農業経営に関して、農業総生産額が目標指標として設定されているが、「平成23年度の農業生産額以上」というのではなく、音更町の反当たり総生産額などの具体的な目標数値を出していく必要がある。(ア)
- ・農業経営に関して、農業総生産額が目標指標として設定されているが、T P P問題や6次産業化等の将来的な展望も含めた数値で表す必要がある。(ア)
- ・後継者育成に関して、音更高等学校農業科生徒数を把握するだけでなく、卒業後の就農状況についても把握する必要がある。(イ)
- ・観光に関して、モール温泉化粧品やモール豚などの特産品を知らない町民もいるので、もっと町民にも知ってもらえるようなP Rを行う必要がある。(カ)
- ・音更ブランド研究に関して、様々なブランド戦略がある中で、「音更」の名を冠するブランド展開を検討していく必要がある。(キ)
- ・魅力発信拠点に関して、十勝川温泉や道の駅の他にも同様の取組をしている人はいるので、それらを支援していくことも盛り込んでいく必要がある。(ケ)
- ・魅力発信拠点やI C工業団地に関して、ハード面の議論だけでなく、ソフト面も並行して議論を進める必要がある。(オ、ケ)

## 重点項目 2

- ・河川景観に関して、散歩コースにある樹木が生い茂って川が見えないほどになっているので、開発建設部に働きかけるなどして整備する必要がある。(ア)
- ・地球温暖化に関して、自然エネルギーを含めて十勝に合った温室効果ガス対策を進めていく必要がある。(イ)

## 重点項目 3

- ・防災に関して、独居老人の人数や、困ったときに誰に連絡したら良いかなどを明らかにするために、町内会の中に防災担当を設置する必要がある。(ア)
- ・防災に関して、町内会の自主防災組織は増えてきているが、町内会未加入者をどうしていくかも考える必要がある。また、ハザードマップを利用した訓練など危機管理の取組が必要である。(ア)
- ・道路や歩道の整備に関して、まだ整備が必要な箇所があるので、通学路等を優先して整備していく必要がある。(イ)
- ・公園施設の長寿命化に関して、施設単体で見直しを行うのではなく、地域の状況や公園までのアクセス、若しくは公園と公園をつなぐアクセスや配置を含めた長寿命化計画が必要である。(オ)
- ・地域会館の整備に関して、高齢者が引きこもり等にならないよう、トイレを洋式に改修し、利便性を向上する必要がある。(ケ)

## 重点項目 4

- ・学校施設の改修に関して、非構造部材の耐震化は急ぐべきものなので、可能な限り素早い対応が必要である。(ア)
- ・学力に関して、手引き等の配布だけでなく、家庭学習の内容についても指導が必要である。また、家庭学習が学力に占める割合は高いので、家庭での指導に関する保護者のための学習会なども実施する必要がある。(ウ)

- ・生涯学習に関して、〇〇JCオープンカレッジや高校開放講座などは、木野地区での開催がないので、今後は住民が多い木野地区での開催も必要である。また、講座内容について、次回の講座を広報で紹介したり、内容によってPR先を変えるなどのPR強化も必要である。(オ)
- ・リーダーバンク制度に関して、満足度の調査を行うなど、需要と供給のマッチング方法を具体化する必要がある。(カ)
- ・スポーツに関して、ウォーキングやマラソンの様な「だれでも」「いつでも」「どこでも」できる運動にも目を向け、講座実施支援、ルートの検討、利用促進などを連動して考え、スポーツに限らない町民の健康増進機会を増やす工夫が必要である。(ケ)

## 重点項目5

- ・幼児教育に関して、幼児家庭教育学級「ママの講座」となっているが、男女共同参画の視点から、ネーミングの検討が必要である。(ア)
- ・子どもの居場所づくりに関して、公園や緑地などの地域資源を活用し、核となる場所づくり・仕組みづくりによって子どもも大人も育ち合う環境とプログラムづくりが必要である。(ウ)
- ・学童や保育園の民営化に関して、運営する民間事業者が異なる中でサービスに差が出ないよう、親たちのニーズを把握しながら運営や人員配置に対して目を配り、町としての役割をしっかりと担っていく必要がある。(ク)
- ・ひとり親の支援に関して、色々な制度を活用するだけでなく、町民相互で協力し、時間がある高齢者が面倒を見る仕組みの検討なども必要である。(コ)

## 重点項目6

- ・コミュニティバスに関して、現在の2ルートの他に、例えば温水プールを利用したい人の便や、住宅地と商業施設等の便など、直行便を時間帯とルートを設定して試験運行を実施することも必要である。(ア)
- ・独居老人など高齢者に関して、徘徊高齢者の事故や孤独死などを防ぐために、行政として可能な範囲で手を差し伸べる必要がある。また、町内会でのネットワークづくりも必要である。(エ)
- ・認知症高齢者に関して、認知症サポーターなどをどう地域のネットワークに組み込んでいくか検討することも必要である。(オ)
- ・地域交流サロンに関して、今後も継続させていくために、財政的な支援を検討することも必要である。(エ、オ)

## 重点項目7

- ・まちづくりのパートナーである町内会に関して、加入率向上に対する有効な打開策はないが、引き続き加入率向上の取組を継続していく必要がある。(ア)
- ・住民サービスに関して、町民からの要望について職員は現場主義を一層徹底して対応する必要がある。また、来庁者や電話での相談などに対して、ワンストップサービスを職員一人ひとりが自覚し、親切な対応を更に心がける必要がある。(ア)
- ・町民への情報提供に関して、紙媒体やホームページだけでなく、SNSなど町民がより身近に活用しているツールをコミュニケーションツールとするなど、より有効な手段を考えていく必要がある。(イ、エ)
- ・町民への情報公開に関して、色々な制度や相談窓口が誰にでもわかるよう、よりわかりやすい周知を行っていく必要がある。(オ)

## ○検証方法等に関する意見

- ・アンケートを実施して貴重な意見を得ているので、それを何らかの形で反映させるべき。
- ・委員会に関して、所管の課長などに出席してもらえば、もう少し踏み込んだ議論ができると思う。
- ・委員会に関して、評価についての議論に重点を置かないのであれば、このような大量の数値資料はいらないと思う。大量の数値資料が提示されると、どうしても評価についての議論に重点を置くことになってしまう。
- ・評価調書に関して、代表的な数値が上がっていることは1つの評価だが、その内容が調書から読み取れない部分があるので、中身もわかるようにしておくべき。
- ・評価調書に関して、全ての評価シートを同じフォーマットにするのは難しい。
- ・評価調書に関して、委員へ提示する資料は、「①重点項目、②重点施策、③事務事業の概要、④結果・外部評価や反応、⑤分析・評価、⑥委員からのコメント・追加事項の欄」でA4程度の資料とした方が良いと思う。
- ・評価調書に関して、重点施策「○○○のため、■■■を実施します」に対して、■■■の数値変動、実施回数などが示されているが、実施結果がどのように○○○へ反映されているかがわからないものが多い。
- ・評価調書に関して、課題は特にないというコメントが多いが、どんなに上手くいっている事業でもさらなる向上・改善のためのポイントや、他施策との関係性の把握などを常にしておくべきであり、特に無いという意識を変えていくべき。